

令和4年度

現場の技術・技能伝承支援研修

受講者募集

座学と実践を通して
企業の中核人材
を育成します。

募集定員 16名 (先着)

ねらい

- 現場において、効果的に技能伝承を進めることで、従業員の職場定着を支援します。
- 監督者としての資質や指導力を強化し、現場の技術・技能の可視化や人材育成方法、専門知識などを習得できる延べ18日間の総合講座です。
- 全カリキュラムを有機的に結び付け、現場の監督者にふさわしい知識・技能・態度を身に付けます。

特

徴

- 受講者の所属企業の製造現場を教室とした実践的な研修です。
※**貴社の製造現場での実践研修**にご協力ください。
- 業務の見える化（マニュアル化、デジタル化）、技能伝承の課題解決、生産性向上などを支援します。



1. 技術・技能を伝承するには、『暗黙知』を『形式知』にすることが大切です。
※暗黙知：個人の経験や勘に基づく知識 ※形式知：文章や図表、数式で説明できる知識
その時、より品質・生産性の高い技術・技能に改善することが求められています。
このプロセスを、座学と実践を通して、“行動できる”まで修得するように進めます。
2. 受講者の“気づき”を大切にし、職場の問題・課題に自ら積極的に取り組む現場リーダーを育成します。
3. 県内企業での指導実績豊富な講師が、受講者に寄り添った活動支援を実施します。
また、講座終了後のフォロー支援も可能です。

概

要

1. リーダーとしての「資質」向上（5日間）
 - ・コミュニケーション能力向上にむけ、話を聴くスキル研修、傾聴ワークの実施
 - ・「歩行ラリー」という屋外競技を通して、3現で事実をみる、チームワークの大切さを体得するとともに、リーダーシップ発揮のポイントを修得する。
2. 「改善力」に必要な手法の修得（5日間）
 - ・『暗黙知』を『形式知』にする時、品質・生産性を向上させる改善プロセスに必要な考え方・手法を演習を交えて学ぶ。
 - ・TQM、TPM、TPS、作業の標準化と作業要領書への落とし込み
3. 受講者所属企業等での「実践力」の向上（6日間）
 - ・テーマ選定（現状把握）、現状分析（問題点の顕在化）、改善策の検討（活動のまとめ）
4. 変化への「対応力」の向上（2日間）
 - ・これまで学んだことを応用して技術・技能伝承の対応、IoTへの対応を学ぶ。
 - ・最後に、活動の成果発表と今後の活動計画、決意表明を実施する。



- ◆開催日：令和4年6月14日～令和4年12月13日（18日間）
- ◆会場：富山市内及び受講者の所属企業の生産現場

対象

- ・将来の管理者を目指す方
- ・現場の管理・監督者として活躍を期待されている方
- ・製造現場の管理・監督者に求められる能力を総合的に習得する必要がある方、又はその候補者で在籍企業から推薦のある方

＜運営団体 一般社団法人富山県経営者協会＞

開催日・研修カリキュラム（概要）

回数	日程	カリキュラム	主な内容	
ステップ ①	1	6/14 (火)	入校式 自己紹介 概論	① 監督者の役割 ② 講座の全体像の理解
	2	6/28 (火)	「気づきの力」 の醸成	① 全体最適について（鳥の目・魚の目・コウモリの目・虫の目） ② 「他責」・「思い込み」からの脱却
	3	7/4 (月)	3現実践力 の養成	① チームワーク ② リーダーシップ
	4	7/5 (火)		③ 屋外研修「歩行ラリー」を通じた“3現実践力”の向上 ※「思い込み」の弊害を体感
	5	7/26 (火)	より良い人間関係 づくり	① コミュニケーション能力の向上
ステップ ②	6	8/9 (火)	QC的な考え方と 問題解決の進め方	① 品質管理概論 ② 5Sの重要性
	7	8/23 (火)	ゲーム感覚で学ぶ IE・PM・未然防止 の手法	改善の進め方（パートⅠ） IEの概要 ① 「ロット流し」と「一個流し」 ② 共同作業分析 ③ 作業者 - 機械分析
	8	9/6 (火)		なぜなぜ分析とその応用 ④ PM分析とその応用 ⑤ 人為ミスの攻略
	9	9/13 (火)		⑥ 設備総合効率（可動率）の算定と活用 ⑦ 作業標準と作業要領書への落とし込み ⑧ IoTへの対応に向けた留意点 ⑨ 実践例の紹介
	10	9/27 (火)	実習現場の 事前研修	① 改善の進め方（パートⅡ） VSMの手法 ② 企業訪問（企業見学、実習職場の事前確認）
ステップ ③	11	10/4 (火)	現場実習①	① テーマの選定 ～ 現状把握
	12	10/5 (水)		① 現場実習①のまとめ
	13	10/24 (月)	現場実習②	① 現状分析 ～ 問題点の顕在化・共有
	14	10/25 (火)		① 現場実習②のまとめ
	15	11/8 (火)	現場実習③	① 改善策の検討 ～ 最終案の共有
	16	11/9 (水)		① 発表資料のまとめ
ステップ ④	17	11/22 (火)	技能伝承と IoTへの対応	① 現場実習先での事例発表 ② 「暗黙知」の「形式知化」
	18	12/13 (火)	成果発表 修了式	① 成果発表 ② 今後の活動計画、決意表明の実施

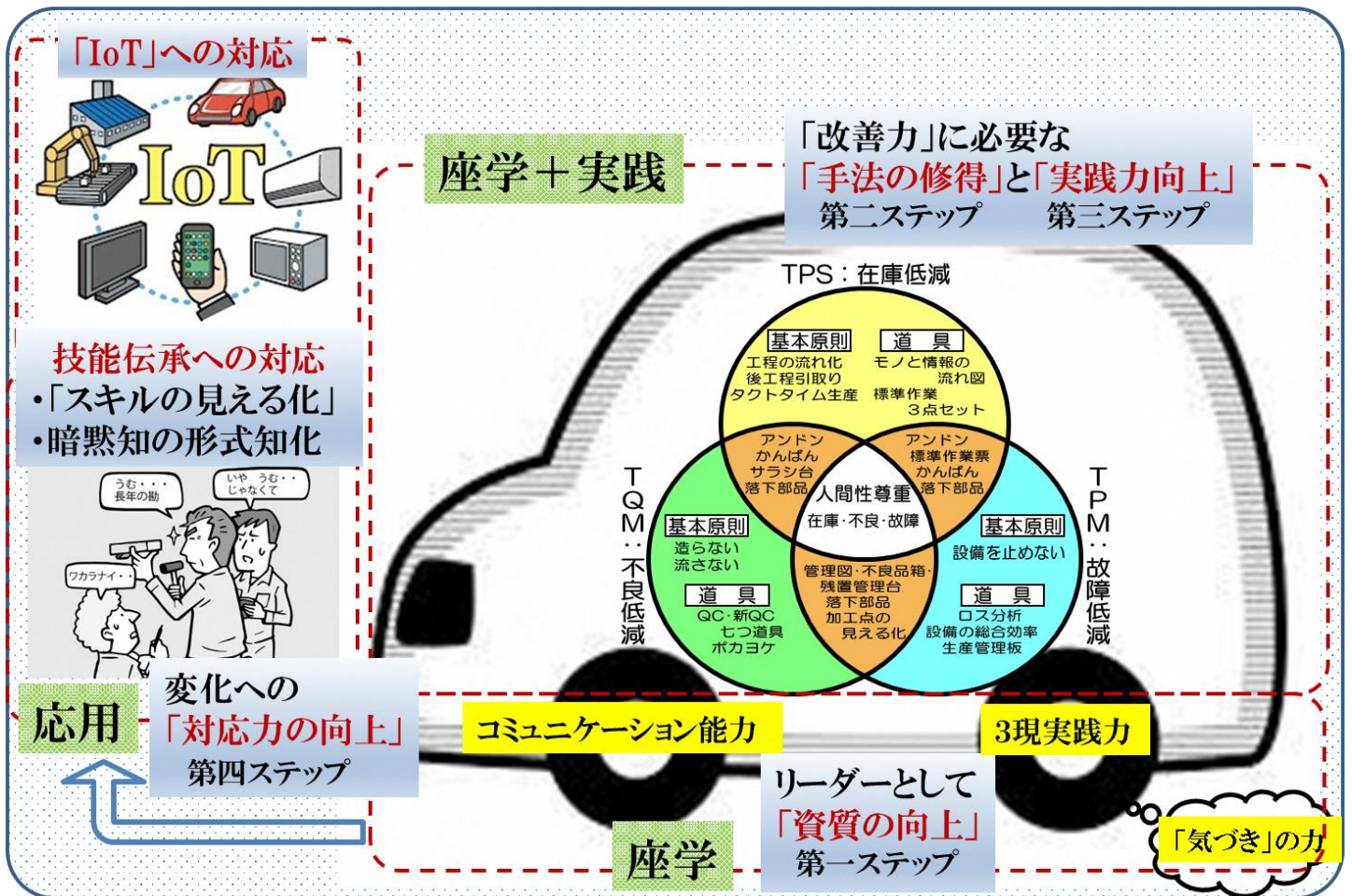
合宿予定

合宿予定

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、カリキュラムを変更する場合があります。
現場実習の時間につきまして、受入企業様の事情により変更する場合があります。

【過去の研修状況】





講師

◆主任講師 棚邊 一雄 (M&P研究所 代表)

1970年アイシン精機(株)に入社後、1972年アイシン軽金属(株)に転籍し、生産技術部門、TQC部門に従事。ダイカスト工場長、常務取締役、専務取締役を歴任後、グループ会社の社長に就任。退任後は、M&P研究所を設立し、中小企業の改善、ものづくり支援に関する指導・コンサルティングに従事。東京大学ものづくりインストラクター(R)としても活動中。

◆主任講師 竹村 稔 (M&P研究所とやま 所長)

1977年アイシン軽金属(株)入社。TQC・PM推進部門に従事した後、機械加工工場長、生産管理部長、米団法人会社アイシン・ライト・メタルズ社長などを歴任。退社後は、M&P研究所とやまを設立し、「品質管理」「生産現場の問題解決」など公開講座の講師や、中小企業の管理改善・人材育成にむけた取り組みの支援を行っている。

◆外部講師 熊原 徹司 (ヒューマンズコンサルティング(株) 代表取締役)

(株)資生堂、SMBCコンサルティング(株)を経てヒューマンズコンサルティング(株)を設立。中小企業診断士。人事制度策定、教育体系構築及び企画、各種人事マニュアル作成から研修プログラムの開発実施に努めている。2009年から組織活性化研修として有名な「歩行ラリー」の教育内容、進め方等を研究し、コース設計会場は15カ所を越え、その経験数は日本トップレベルである。現場の管理者を対象とした3実践能力の向上をねらいに活躍している。

◆現場実習講師

品質管理部門、製造部門の責任者として第一線で活躍している経験豊富な県内企業の経営者・管理者

新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応として、以下の感染予防対策を講じて実施いたします。

■感染症防止策

- ① 入室前の検温 (37.5度以上は受講見合わせ) ② アルコール消毒薬の設置
- ③ マスクの着用 ④ 座席の間隔を十分に確保 (1卓1人)
- ⑤ 指定席での着座 (不測時の追跡用) ⑥ 飛沫防止板の設置 ⑦ 外気との換気

